



Lend a Hand

## 手を貸そう

2003-2004年度 国際ロータリーのテーマ

### 第 2560 地区ガバナー

原 信一  
会 長……………佐野 勝 栄  
会長エレクト……………渡辺 喜彦(クラブ奉仕A)  
副 会 長……………小越 憲 泰(クラブ奉仕B)  
幹 事……………荻根 沢 隆 雄  
S A A……………杉山 幸 英  
会 計……………渋谷 正 一

例 会 日……………毎週水曜日 12:30～  
例会場及び……………三条市旭町 2-5-10  
事 務 局……………三条信用金庫本店内  
例 会 場……………TEL 35-3311  
事 務 局……………TEL 35-3477  
FAX 32-7095

E-mail: [sanjo-ss@web-niigata.ne.jp](mailto:sanjo-ss@web-niigata.ne.jp)

web: <http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/>

本日の出席会員数	65名中43名
先々週出席率	88.71%

### ゲ ス ト

地区米山奨学委員長 佐藤 襄 様  
米山奨学生(中国より) 譚 春 鳳 さん

### 先週のメイクアップ

10/6 三条南へ 藤田 紘一さん 長谷川 有美さん  
五十嵐 晋三さん 石橋 育於さん 金子 俊郎さん  
菊池 涉さん 熊倉 昌平さん 室星 正幸さん  
斎藤 弘文さん 渋谷 正一さん 清水 良一さん  
渡辺 喜彦さん

### 10/6 地区情報委員会へ

細井 増雄さん 吉井 俊介さん

### 会 長 挨 拶



佐野 勝 栄 会長

皆様こんにちは、今日は先週もお話した通り、今月は米山月間ですので地区米山奨学委員長佐藤さんをお迎えし、卓話を戴く事になりました。

日本独自の米山奨学金は経済的に恵まれないアジア諸国の優秀な学生が日本の大学、大学院へ留学する為の経済的支援制度です。卓話をお聞きし、さらに理解を深め、ご協力をいただきたいと思います。これも識字率向上のためのRIの支援プログラムと同等の大変意義のある支援制度と思います。これと比較して経済的にも教育の機会にも恵まれた、わが国の青少年の犯罪が増加しています。しかも低年齢化しています。今年の3月まで小学6年生だった生徒が、幼い子供を屋上から突き落とし、死亡させる事件など、後を絶たず起きています。今や特に幼児期の「心の育成」が喪失しつつあります。この様な憂慮すべき問題を直視し、幼児期の段階から改めて考え直し、豊かな人間性を育む方策を真剣に模索する時に来ているのではないのでしょうか？

さて、今日、子供達に「生きる力」を育もうとする時、我々が取り組まなければならない最も重要な



課題の1つは、「生きる力」の礎とも言うべき、生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心等の豊かな人間性の育成を目指し、心の充実を図っていく事がいかに大事かという事です。

しかしながら、家庭をめぐっては、少子化や核家族等を背景とする様々な生活体験の減少、親の無責任な放任や、逆に過保護、過干渉といった傾向が指摘されています。

また、地域社会においては、地縁的な連帯が弱まり、人間関係の希薄化が進むとともに、生活体験や、自然体験などが失われております。さらに学校に関しても、過度の受験競争などを背景として、学校生活が「ゆとり」のないものとなって、友人達との交流を深めたり、自己実現の喜びを実感しにくくなったりするなどの課題が生じています。この様に頭と心のアンバランスな子供達が育ち、日本の将来を担うかと思う時、何か寒々としたものを感じずにはいられません。大人へ成長するには時間がかかります。今から手を打っても望ましい効果が出るまで、20年後位の長き時間を要します。

発展途上国や経済的に恵まれない国の子供達は生まれながらにして、大きなハンデキャップを背負っていますので、逆境に強く逞しさを感じます。日本へ留学して来るこの米山奨学生は日本で勉強して、国際性豊かにさらに大きく成長して世界各地で活躍するでしょう！ さあ！皆さんも日本の子供達の心の育成について今こそ考える時であり、文部科学省の役人などに任せても解決できません。どの様にすべきか真剣に模索し、一大人として、ロータリアンとして手をこまぬいている訳には行きません。

## 幹事報告

荻根沢隆雄幹事

◎ 三条ローターアクトクラブより公式訪問のご案内が届いております。

とき 11月6日(木) PM7:30~  
ところ 丸井今井邸

## ニコニコBOX

佐野勝栄さん

佐藤米山奨学委員長、奨学生 譚 春鳳さんを歓迎して。

荻根沢隆雄さん

米山奨学生の譚さん、ようこそ当クラブへ。在日中は健康に留意され頑張って下さい。

川瀬康裕さん、石塚欣司さん、松谷昊吉さん、小越憲

泰さん、杉山幸英さん

佐藤地区米山奨学委員長と譚さんを歓迎して

会田二郎さん

米山月間での卓話嬉しく思います。また、楽しみです。

菊池 渉さん

昔の賑わいを取り戻したく「お取り越し」に三遊亭金馬さんに来てもらう事になりました。

細井さんありがとうございました。また、広告を載せてくださった方々ありがとうございます。

お帰りに整理券をお持ちください。

橘 直樹さん

日曜日に佐野さん、中村さんに引かれて管名岳に登ってきました。天候にも恵まれ楽しい一日でした。

昨日はゴルフコンペで初めて2ホール連続ギブアップしました。悔しいっぱいでしたが、大波賞をもらいました。

斎藤真澄さん

加茂市の造園の仕事が入り、喜んでます。

五十嵐晋三さん

秋晴れです。近藤さんにニコニコしなさいと言われました。

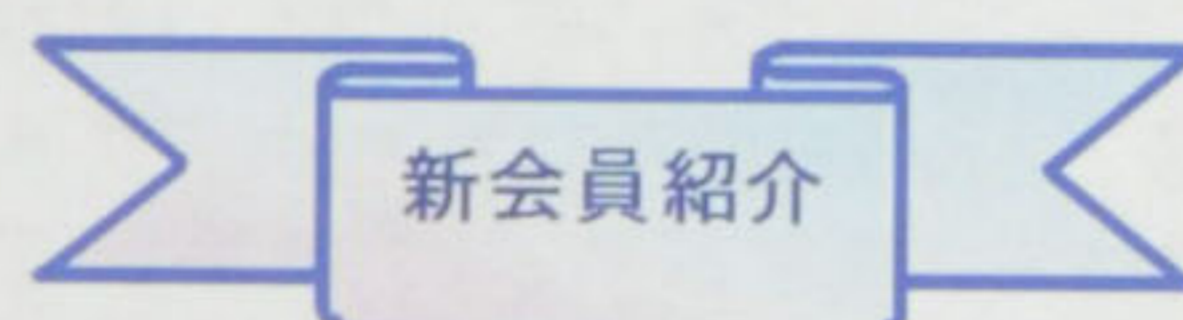
金子俊郎さん

ボックスに協力して。

山田富義さん

都合により早退します。

10月8日分 ￥ 15,000  
今年度累計 ￥ 337,000



新会員紹介

猪口 英夫 さん

生年月日 S39年12月 6日

勤務先 (株)日本旅行 燕三条支店 支店長  
三条市須頃2-121  
Tel 33-3112 Fax 35-3500

自宅 三条市田島2-18-11  
ロイヤルタウン三条 参番館102  
Tel・Fax 36-2939

家族 妻 長男 長女  
趣味 ゴルフ

## 卓話



地区米山奨学委員長

佐藤 襄 様

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。米山奨学生の地区別採用数は、寄付金の推移を目安に、採用する全奨学生数を決めます。その採用数を個人平均寄付額の枠(7割)と、留学生数(米山奨学金の有資格者数)の枠(3割)に分け、それぞれの枠を各地区実績の対全国比率で分け、34地区の割り当て数を決定します。

米山奨学金を受けるためには、地区で指定する大学の推薦が必須条件です。指定校ごとに推薦者数が決められており、申込者は大学での選考とロータリーによる選考という2段階の選考を受けなくてはなりません。

米山記念奨学金の財源はロータリアンの寄付が支えています。財団法人となって36年、米山奨学会は日本のロータリアンが誇る民間最大の奨学事業となりました。しかし、厳しい経済環境と会員数の減少により、寄付収入は減少の一途を辿っています。現在寄付収入は16億円。奨学金額は17億円を超えています。その他必要な費用を含めると、年間約20億円が必要です。現在不足分は奨学資金特別特別積立金を充当しています。理事会・評議会は、この苦しいときを乗り越えるためにこれまで積み立ててきた基金を活用し、積極的に事業を推進することを決断しました。皆様の一層のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



新潟北ロータリー・クラブ

譚 春鳳

(新潟大学生体機能調節医学)

「日本に来てからの私」

1999年9月、医学部4年生の私は日本にやってきました。中国の母校は山形大学医学部と友好姉妹学校の関係を締結し、毎年4年生の学生の一人か二人を派遣し、特別聴講生として山形大学医学部で1年間勉強させています。私の運が良いのかそれとも本当に自分が頑張った結果なのか学校の総評および面接試験を合格し、10名の候補の中に選ばれて日本に来られることになりました。まだ、23歳未満の私、出身地の中国河北省以外のところに行ったことの無かった私、学校の使命および両親の不安を背負って、中国を離れ、遠い日本にやって来まし

た。

来る1ヶ月間、「あいうえお」から日本語を習い始めました。ですから、来たときの私の日本語レベルは考えなくてもおわかりいただけると思います。正直に言って、日本に来た時乗った飛行機の中で、ひとりこれからの新生活を考え、怖かったです。言葉は全然わからない状態からはじまり、知り合いは一人もいない国に生きることを考えるとき、飛行機は永久に降りないでほしかった。今は当時の心情を思い出すと、笑いますね。もし本当にこんなことが起きちゃったら、今、私はここにいるわけじゃないですね。

非常に短い3時間が経ってから、飛行機は無時、仙台空港に到着しました。今は覚えていないのですが、ま、何とか税関を通りました。山形から迎えにきた田中さんという女性の方に会ったとき、一応安心しました。しかし、すぐ別の問題がありました。仙台から山形までの1時間の間に、車の中の空気は非常に重かった。黙る黙る、また黙る、日本語がわからないので、当時、私の心はずごく苦しかった。あんな遠いところから迎えにきたのにになにも話さないのが一番失礼なことだと思います。最後、やっと、一つの単語を思い出して、そして前に日本を加え、「日本はきれいですね」と1時間唯一の言葉が出ました。田中さんは笑顔を見せながら「大丈夫、一年経てば、日本語もきつとうまくなれるよ。何か心配なことがあったら、遠慮なく言ってね」と優しく言いました。もちろん、当時このレベルの言葉もわからなかったのですが、一年間終わった時、田中さんは当時の事を思い出して親しく教えてもらいました。山形にいた一年間、田中さんは母親のように私の日常生活の細かいところまで配慮してもらい、服、布団、お菓子までよく送ってもらいました。こんな優しい人に会ったことが私にとって最大の幸せだと思いました。

日本に来た3日後、通学は始まりました。最初、もちろん、日本でやらなければならないのが自己紹介でした。これはもう問題無く、中国で最後の一ヶ月に日本語の先生から何回も試験された問題だったのでもうすっかり覚えていました。順調に日本の大学生の前で自己紹介しました。終わって、席に戻ったすぐ後、一人の女の子が私に近づいて「初めまして、川村由紀といいます。宜しく」と非常に簡単な挨拶で日本で一番最初の親友ができました。明るい彼女を通して私はいろんな活動に参加し、本当にクラスメートの一人として存在感が出てきました。市役所訪問、小学校現状調査など日本の大学生のように日本の教育方式で勉強しました。また、最初の時、授業が終わった後、由紀ちゃんの家で無料の日本語授業を受けました。彼女のおかげで、日本に来た2ヵ月後、私は日本語スピーチコンテストに参加しました。優勝にはなれなかったんですけどすごく嬉しかった。暇なとき由紀ちゃんはよく私を連れて山形の名山に行きました。蔵王、県民の森と一緒に遊んだ姿を一生忘れません。試験の前に、私が覚えやすいように、彼女は各科の知識を真面目にまとめてくれました。一緒に図書館で勉強したり、試験を受けたりしたことを今思い出してみると、まるで昨日の事のように私の目の前に浮かんできます。日本で結んだ雪のような純潔な友情

を永遠に忘れません。

学校の先生、クラスの友達をはじめとして、住んだ国際交流会館の近所のおじいさん、おばあさんまでいろいろとお世話になりました。また、ホームステイで高橋さんのお宅で一泊しか泊まらなかったですけど、家族の愛をよく味わせてもらいました。日本に来た半年後の春休み、大学の先生は私に一人での日本旅行をさせ、古都京都、大都市名古屋、大阪を自力で楽しんできました。私は山形で本当に楽しい毎日を送りました。今いろいろ思い出すと、日本に来てからの一年間私が感じていたのは孤独と辛さではなく、まさに幸せと楽しみそのものでした。

山形一年間の勉強は私の中国医学部5年生としての一年に相当し、山形の勉強が終わった時点で、私は中国の母校から卒業しました。日本で進学したい、と決心し、私は今の指導教官である高橋先生に手紙を出しました。私の運が良かったのか高橋先生から受け入れの返事をすぐ戴きました。新潟に来た時乗った飛行機の中で一人の人間としてすごく喜んで、飛行機に速く着いてほしかった。非常に長い3時間が経ってから、新潟に着きました。しかし、喜んだ日は長く続かなく、涙を流した日はほぼ毎日でした。専門知識の難しさ、日本語の不十分、半社会生活と単純な学生生活の違い……いろんな問題が出てきて、現状は想像した楽しい、充実した山形での一年のような留学生活と全く一致しませんでした。前にずっと自分は少し頑張ったら何でもできると自信満々でしたが、新潟に来てから、大学院生としての勉強が始まってから、自分は何もわからないのがわかりました。ずっと優秀だった自分は自尊心や自信がどんどん失っており、いくら頑張っても、あまり進歩しませんでした。そしてどんどん落ち込んで集中できなくなりました。一時期、自分はもしかしたら鬱病になっちゃったのかなと思いました。しかし、私の不進歩に教室の先生方は相変わらずずっと優しくしてくださいました。でもこれも当時自責の原因となり、先生方を裏切ったと思い、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。本当に当時の心理状態はもう崩壊の境界になってしまいました。ほぼ毎日の夜、両親に電話して、“帰らせてください” “これ以上もう我慢できない”と苦情を言いました。しかし、両親はずっと“自分の選んだ道だから、もうちょっと頑張ってみて” “一時期の困難に負けないよう、自信を出して”と支えてくれました。教室の先生たちもどんな苦労しても諦めず、一回、二回……何回も教えて、ずっと私がわかるまで“諦めないで、頑張ってください”といつも先生方から励ましてくださいました。その後、専門知識も少しわかってきて、その面白さを実感し、私の心情も少しずつ落ち着いてきました。毎日やる事も少しずつ増えて、自信も少しずつ戻ってきました。

去年の秋、地方会議で初めての発表、そして今年名古屋での日本神経病理学会、およびイタリアのトリノでの国際神経病理学会で発表させていただきました。このように私の視野はどんどん広がり、自分は一人の人間としてどんなに小さいのか、自分以外の世界はどんなに広いのか、少しずつの勉強はどんなに大事なのか、色々わかりま

した。いま、私はいろんなことの学習を楽しんでいます。

今年4月から私は米山奨学生になりました。今回も私の運がいいのかそれとも本当に頑張った結果なのか私は順調に大学の試験およびロータリーの面接試験を合格し、正式の米山奨学生になりました。そして日本のお父さん、お母さんがいるようになり、私をお嬢様のように可愛がってくださいています。感謝の気持ちは何の言葉で形容できるのかわかりません。大橋先生、本当にありがとうございます。これからも、宜しく願いいたします。6月、米山奨学生としてはじめてクラブの例会に参加させてもらってから、ロータリーへの理解を少しずつ深めてきました。ただの奨学生の世話だけでなく、社会のいろいろな面から優秀なロータリアンは自分の力を貢献しておられることがわかりました。

私が一番感動したのは、このクラブは筋萎縮性側索硬化症、いわゆる ALS 患者さんへ支援していることです。私は今 ALS の神経病理学を研究しています。臨床上、ALS 患者さんの苦しみ、歩けない、手を上げられない、日常生活をできない、最後呼吸さえもできないこと、病理学的に運動ニューロンはひどく落ち、ニューロン内にいろいろな封入体が形成したのがよく分かりますけど、研究以外私は何もできませんでした。しかし、毎月クラブの報告を聞き、またチャンスがあれば私も支援活動に参加できることを知り、私も苦しんでいる ALS の患者さんを助けてあげられる喜びもありました。ロータリーが世界で素晴らしい貢献をしていることを“ロータリーの友”という雑誌を通して知りました。戦争、災難多発の今、私は若者の一人として、どんな立場で正しいのか、これからの人生をどうやって有意義に作るのかロータリーに少しずつ教えられています。将来、自分も立派なロータリアンになりたい、慈愛の種を播きたいと思います。

私は“波瀾万丈伝”という番組が一番好きです。この番組はいろんな職業の名人の成長の足跡を紹介しています。この番組を見てから、どんなに成功した人もその成功の前にいろいろな困難、波瀾に遭い苦しんだ後成功の甘みを味わいました。これは本当の人生、有意義な人生だと思っています。

私はこれからも波瀾万丈の人生を楽しんで行きたいと思っています。

次週例会 10月22日(水) 職場例会  
於: 三条郵便局

次々週例会 10月29日(水) クラブ休会

